

# 広島別院だより

Vol.19  
秋号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会発行

## 秋彼岸会が勤まる

九月二十五日 秋彼岸会が勤められました。爽やかな秋晴れの中、僧侶・門徒ら五十名以上が参詣し、『往生礼讃偈』を唱和しました。

講師を務めた銀山町の灘尾寛師（安芸南組徳栄寺住職）は、彼岸について「核家族化により家の中の仏事の伝承が困難になってきた現在、彼岸の意義も忘れ去られようとしている。しかし、彼岸などの伝統的な仏事を通して、念仏が幼い頃より無意識のうちに先祖から伝えられてきた」と話されました。

そして、念仏について、「お念仏をいただくということとは、仏さまにひと時の癒しを求め、現実逃避するためではない。百年前に広島から海外へと多くの真宗門徒が御本尊を携えて移民していったが、彼らは念仏を称えながら荒地を開墾していった。それは、むしろ厳しい現実を引き受けて生きていくための勇気をいただく拠り所だったのである」と、念仏を大切にしていた人々の話を紹介されました。

最後に「お彼岸を勤めるということとは、その念仏を拠り所として、人生を生き抜いてほしいという先人の願いを受け取る仏事である」と話されました。



講師：灘尾 寛 師



## 大谷大学仏教公開セミナー開催

九月一日 広島別院で大谷大学仏教公開セミナーが開催されました。

「生老病死を考えるーお釈迦様も不安だったー」というテーマで織田頭祐先生（大谷大学教授）が講義されました。

何の不自由もない王様の世継ぎとして生活していたお釈迦様が出家した動機を「四門出遊」の伝記を手がかりに話されました。

そして、「今も昔も変わらず人間は不安を抱えて生きています。

豊かで便利な世の中を生きる私たちは、お釈迦様の問いと求道を通して、自身自身を考えてみるべきである」と話されました。



講師：織田頭祐 師

## 広島別院団体参拝

左記の団体が広島別院明信院に参拝されました。お参りいただき、誠に有難うございました。

十月 六日

真宗教団連合鹿児島支部様

十月 十一日

岡崎 赤羽別院 列座様

### ～業務休止のお知らせ～

誠に勝手ながら、広島別院は12月28日から1月4日までの8日間、業務を休止いたします。休止期間中、ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

なお、上記の期間でお参りをご希望の方は、事前にご連絡ください。

## 仏華講習会 開催

九月十二日 鸞聲会（らんじょうかい）主催の仏華講習会が広島別院で開催されました。

鸞聲会員や県内各組から、総勢二十七名の参加でした。

講師は全国で活躍されている仏華研究会「ちいちの華」から洲崎善範師（大阪教区第十三組即念寺住職）をお迎えしました。

参加者はそれぞれが持参した花瓶に花材を立てていきました。

「木花を横に広げがちであるが、前後に出すことによって奥行きが生まれてくる。立花が苦手な人も多いが、浄土の荘厳である仏華に親しみを持ってほしい」と話されました。



# お寺のハテナ？

## みつぐそく 三具足



本尊(南無阿弥陀仏)の前に置く  
仏具を三具足といいますが。中央に土  
香炉(どじゆん)、向かって左に花  
瓶(かひん)、右に燭台(しょくだ  
い)を置きます。これを三具足とい  
います。平常のお荘厳(しようこん)  
です。報恩講の時には花瓶と燭台は  
一対にします。これを五具足とい  
います。

土香炉は足が前にくるように  
置きます。線香は土香炉の大き  
さに合わせて何本かに折って、立  
ずに寝かせて置きます。

花瓶は袴(はかま)の部分の前  
にくるように置きます。造花やト  
ゲのある花、毒のある花は用い  
ません。

大谷派の燭台は、亀の背中に鶴  
が乗った形です。鶴がくわえてい  
る軸を蓮軸(れんじく)といい、  
蓮の実が正面、蓮の葉が外側、蓮  
の蕾(つぼみ)が内側となります。  
亀のしっぽ  
が手前に向  
くように置  
きます。

普段は朱  
の木蟬を立  
てておきま  
す。



## 法座・講座等の御案内

# 広島別院報恩講

【期日】 十二月六日(水)・七日(木)

【講師】 講師 安本浩樹師(安芸北組 専光寺住職)

日程 ■ 六日 一四〇〇～速夜勤行(入楽)と法話

一六〇〇～初夜勤行と御伝鈔の拝読

七日 八〇〇〇～晨朝勤行と法話

一〇〇〇〇～日中勤行(入楽)と法話

※入楽とは雅楽演奏の入る法要です



広島別院報恩講をお勤めいたします。  
お誘いあわせのうえ、ご参詣ください。

## 道場樹【編集室より】

私の住むお寺では二十八日は同朋会をしております。

内容は、最初に『阿弥陀経』をゆっくり読み、その後、ストレッチ、レーザーフラット、オーガニッククスプレー作り。そして時には、子どもたちが今持っている悩みを話し、それについて大人もそれぞれの経験を通して、話をすることもあります。

今月は何をしようかしらと悩んでいたとき、「今度、私の趣味を話してもいいですか」という提案がありました。プロジェクトを使い、ご自身のとられたモノクロの写真を流しながら、自宅での現像の様子と共に写真に込められた思いを話していただき、感心と感動の時間となりました。その時、お寺での時間を「共に学びながら生きる時間」として作っているのは寺族である私たちではなく、ご門徒の方々の存在が作っているのだということに改めて強く感じました。

一番小さい子どもは四歳から参加していますが、その子どもから学ぶことはたくさんあります。これからも、自分自身を成長させていただけるとの時間を、ご門徒の方々と大切にしていきたいと思っております。(R・S)

## ◎定例法話

毎月 5日(2018年1月は休み)

日程 14:00～勤行と法話

15:00終了予定

講師 県内僧侶(月替わり)

広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。

## 真宗大谷派(東本願寺)広島別院明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

Tel 082-241-5342(電話・FAX 共通)

【HP アドレス】 <http://hiroshimabetsuin.com/>

## ◎真宗基礎講座

2017年12月16日(土)

毎回 13:30～16:00

講師 古田和弘師(大谷大学名誉教授)

参加費 500円

『歎異抄』を通して浄土真宗の基礎を学びます。